学校番号	111

令和２年度　家庭科

教科	家庭科	科目	家庭総合	単位数	4 単位(2.3 年次各 2 単位)	年次	3 年次
使用教科書	「新家庭総合」今を学び未来を描き暮らしをつくる　（教育図書株式会社）						
副教材等	生活学 Navi 資料＋成分表 2019（実教出版株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

１．人が生きてゆく上で必要な知識、とりわけ家庭生活にかかわる基本的な知識を身につける。
２．実験・実習を通して、自立に向けた技術を身につけるとともに、現状の生活課題などを自ら発見し、解決する過程を知る。
３．さまざまな体験学習を通して、座学などで身につけた知識をより確実なものとする。

2　学習の到達目標

１．人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。
２．学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育てる。
３．家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・子ども、高齢者、消費、食生活、住環境などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、さらに生きてゆく上の知識・技術を習得して、自分の生活をデザインしようとする意欲かある。	・学習した内容を理解した上で、自分の生活課題や社会的課題をみつけ、解決のためどのようなことができるかを思考し、判断した内容をレポート等にまとめることができる。	・自立するために必要な縫製技術、また家族などの介護や保育のための基礎的技術などを身につけることができる。	・人が生きてゆく上で必要な「家庭生活」にかかわる基本的知識を身につけ、理解している。
評価方法	発表 観察 レポート 振り返り用紙 プリント（ノート）	観察 レポート プリント（ノート） プレゼンテーション	実習・実験 観察 チェックカード レポート	定期考査 小テスト レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第2章保育	1 子どもの成長を見つめる ・子どもの成長 ・発育と発達 ・コミュニケーションの発達 2 子どもの世話をしてみよう ・親の役割 ・基本的生活習慣 ・子どもの健康・安全を守る ・子どもと遊び 3 子どもを取り巻く環境 ・子育ての現状と問題点 ・子育てを支えるしくみ 4 子どもの権利と福祉 ・子どもの権利を守る	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a:母体の健康と子どもの誕生、子どもの心身の発達について関心を持ち、家族の果たす役割を考えようとしている。子どもとの触れ合いを通して子どもの発達や生活に関心を持ち、保育の重要性や社会の果たす役割を考えようとしている。 b:子どもと触れ合う学習活動について、学習目標、実習中の判断、学習後の振り返りなど、成果をﾚﾎﾟｰﾄにまとめたり発表したりできる。 c:子どもと触れ合う実習で子どもたちと適切に関わったり、子どもの発達の実際や生活の様子について観察したりすることができる。 d:生命の尊さ、子育ての意義の重要性について理解している。妊娠や出産に関わる知識を身につけている。子どもの心身の発達や生活と環境との関わりについて家族や地域や社会が果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。社会全体で子育てを支援する必要性を認識し、子どもの権利と福祉について理解している。	観察 実習ﾚﾎﾟｰﾄ プリント 定期考査
	第5章食生活	1 食生活をみつめよう ・食事のもつ機能 ・現代の食生活の課題 2 私たちが食べているもの ・栄養素とは ・栄養素の働き	○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	a:自分や家族の食生活に関心を持ち、食生活と健康の関わりを考え意欲的に食生活の改善向上に努めようとしている。また積極的に調理実習に取り組むことができる。 b:栄養と健康な食生活の関わりについて考えている。食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすについて家族や自分の食生活と関連させ考えている。	観察 プリント 小テスト レポート 定期考査

		3　献立と調理 ・理想の献立 ・調理実習	 ○ ○	 ○	 ○ ○	 ○ ○	c:主体的に食生活を営むために必要な情報を収集・整理し検討することができる。各栄養素の体の中での働きやそれらを含む食品の特徴を知り、ﾊﾞﾗﾝｽのとれた食事を考えることができる。基本的な調理器具の扱いかたと調理ができる。 d:栄養、食品など食事と健康の関わりについて科学的に理解している。現代の食生活の課題、食文化、食品の安全性や環境についての課題を認識し、その知識を身につけている。調理に関する実習から献立や調理について改善点をみつけ考察することができる。	
2学期		4　安全・安心な食品を選ぼう ・食品の選択・保存・安全 5　食と暮らしのかかわり ・食文化の継承 ・食料自給率の低下と食育	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○		 ○ ○ ○		観察 プリント 小テスト レポート 定期考査
	第3章高齢期	1　超高齢社会を考える 2　高齢者と介護 3　高齢期の生活を支える仕組みとは	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○	a:高齢者の生活に関心を持ち、未来の自分の生活としてとらえることができるようになるとともに我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題について考えることができる。 ｂ:高齢者の生活から我が国の高齢化の特徴を知り、高齢者福祉の現状と課題についてどうすべきか考えをまとめ、発表することができる。また高齢期の生活を支える制度について考察することができる。 C:高齢者の介護について具体的な方法を理解し、認知症などの高齢者への言葉がけなどに気を付けてコミュニケーションをとることができる。 ｄ:我が国のこうれいかの特徴や制度、高齢者の暮らしについて、また社会福祉制度や介護について知識を身につけ、理解している。	観察 ﾚﾎﾟｰﾄ プリント 視聴ﾚﾎﾟｰﾄ 定期考査
2学期	第7章住	1　人と住まい 2　住まいの空間と領域	○ ○	○ ○	 ○	○ ○	a:住宅の機能、住空間の設計、住環境の設備について科学的に理解し日常生活に生かそう	観察 ﾚﾎﾟｰﾄ プリント

		3 住まいと安全	○	○		○	と考えようとしている。 b：家庭の状況に合わせて住まいを変える必要性に気づき、安全・快適で環境に配慮した住まいについて考えることができる。 c：住居の平面図を読み取り、動線などを配慮した住計画をすることができる。 d：私たちの暮らしが地域とつながっていることを知り、街づくりに参加する重要性を理解する。	視聴ﾚﾎﾟｰﾄ 定期考査
3学期		4 住まいと社会 5 住まいと環境	○ ○	○ ○	 ○	○ ○		
	第8章生活設計	1 目標をもって生きよう 2 人と関わって生きる 3 持続可能な社会をめざして	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	a：自分の生活を見つめなおし、地球環境保全に貢献できるライフスタイルについて考えようとしている。 b：地域社会の一員として支え合う大切さを知り、生涯を見通した生活設計の重要性について理解し、よりよい選択肢を選択することができる。 c：地球環境保全や地域のコミュニティの重要性と活用方法を理解し、生活設計をすることができる。 d：地球環境保全に貢献できるライフスタイルを確立するための基礎的な知識を身につけ、その内容を理解することができる。	観察 ﾚﾎﾟｰﾄ ﾌﾟﾘﾝﾄ 視聴ﾚﾎﾟｰﾄ 定期考査

※　表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
　　c：技能　　d：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。